

2024年度 学校評価公表シート

安田幼稚園安東園舎

1. 園の教育目標

人間形成の基盤が培われる大切な幼児期に、一人の人間として自立して生きられるよう、大切なことはきちんと教えたい。学園創設以来、守られてきた学園訓「柔しく 剛く」の建学の精神のもと、「やさしい心 たくましい力」をもった子どもの育成に努めることを教育方針とし、次のような子ども像を教育目標として掲げている。

○自分のことが自分でできる子ども

○友達と仲良くできる子ども

○元気でやる気のある子ども

教育の柱として以下の3つの項目をあげる。

1. 自分が好き（挨拶や片付けなど基本的生活習慣の定着と聞く・話す・考える・表現するなど自信をもって行動していく力を育む）
2. 友達が好き（友達のよさに気づき、協同・協調する力を伸ばし、集団の中で約束を守る態度を育む）
3. 自然が好き（頭と身体を存分に使って遊び、丈夫な身体と強い心、自然の恵みに感謝する心、感動する心を育む）

2. 園の教育目標 重点目標とその設定理由

重点目標を

「意欲的に環境に関わり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成」

～環境に主体的に関わるための保育の充実を考える～

とした。子どもたちが園にある環境に主体的に取り組むためには教師がどうかかわっていくか、また、園にある環境をどのようにいかしていくかを考えていきたいという思いで設定した。

本園の3つの教育の柱として掲げている自分が好き・友達が好き・自然が好きから1項目ずつ重点を置き、取り組んだ。三学年を通して段階を追って考えられるもの、経験の積み重ねが目標の姿へつながることを意識して定めた。また、各学年で目指す子ども像や具体的に取り組む事項を定め、日々の生活の中でより意識できるようにした。

3つの柱の内容の重点項目を、子どもの姿から今年度は以下の通りに決めた。

「自分が好き」…「挨拶」について

「友達が好き」…「友達との関わり」について

「自然が好き」…「戸外で遊ぶ」について

3. 2024年度保護者アンケート結果（全体）

204 件／ 207 人 回収率 99%
 （年少 70 件・年中 67 件・年長 67 件）

幼稚園の指導に関する質問事項		保護者の評価			
		4…あてはまる	3…ややあてはまる	2…あまりあてはまらない	1…全くあてはまらない
1	（年少）日常生活の挨拶が分かり使える指導が行われている	67 件	3 件	0 件	0 件
	（年中）進んで挨拶をする指導が行われている	61 件	4 件	0 件	2 件
	（年長）いろいろな人に進んで挨拶をする指導が行われている	60 件	6 件	1 件	0 件
2	（年少）クラスの友達に親しみをもち一緒に遊ぶ指導が行われている	67 件	2 件	1 件	0 件
	（年中）友達と考えを伝えながら、同じイメージで遊びや活動を進める	55 件	9 件	2 件	1 件
	（年長）グループ活動の中で、友達と考えを出し合いながら活動を進める	62 件	5 件	0 件	0 件
3	（年少）先生や友達と一緒に喜んで戸外で遊ぶ指導が行われている	67 件	3 件	0 件	0 件
	（年中）戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを感じる指導が行われている	59 件	6 件	1 件	1 件
	（年長）戸外で体を十分に動かして遊ぶ指導が行われている	56 件	10 件	1 件	0 件
幼稚園の取り組みに関する質問事項					
4	教員は一人一人の発達を理解し、それにあった対応をしている	少：68 件	少：2 件	少：0 件	少：0 件
		中：58 件	中：7 件	中：2 件	中：0 件
		長：59 件	長：7 件	長：1 件	長：0 件
5	教職員は、保護者の話を丁寧に聞いたり、相談にのったりする等の対応をしている	少：66 件	少：4 件	少：0 件	少：0 件
		中：61 件	中：6 件	中：0 件	中：0 件
		長：59 件	長：7 件	長：1 件	長：0 件
6	保育だよりやクラスだよりを通して今年度の重点目標やそれに関する園児の様子を伝えている	少：68 件	少：2 件	少：0 件	少：0 件
		中：64 件	中：3 件	中：0 件	中：0 件
		長：60 件	長：6 件	長：1 件	長：0 件
7	園の環境（園庭、探索道など）を活かす保育をしている	少：70 件	少：0 件	少：0 件	少：0 件
		中：66 件	中：1 件	中：0 件	中：0 件
		長：60 件	長：6 件	長：1 件	長：0 件

※保護者アンケートを基に、1 年間の幼稚園の取り組み（具体的な手立て・環境構成や教員の援助など）による子どもたちの育ちについて評価した「自園評価」も合わせて公表しています。
 結果は次頁のとおりです。

4. 学校評価 結果

評価の仕方…保護者の評価：保護者アンケートの評価（4 から 1 まで）を平均にしたもの

自園の評価：各クラス・学年で成果が見られた子どもの割合を示し、以下で照らし合わせ表記した

※80%以上…4、60%～79%…3、40%～59%…2、40%未満…1

幼稚園の指導に関する評価項目			保護者の評価		園の評価	
			学年	全学年	学年	全学年
1	(年少) 日常生活の挨拶が分かり使える指導が行われている	少	4.0	3.9	4	3.7
	(年中) 進んで挨拶をする指導が行われている	中	3.9		3	
	(年長) いろいろな人に進んで挨拶をする指導が行われている	長	3.9		4	
2	(年少) クラスの友達に親しみをもち一緒に遊ぶ指導が行われている	少	3.9	3.9	4	4
	(年中) 友達と考えを伝えながら、同じイメージで遊びや活動を進める指導が行われている	中	3.8		4	
	(年長) グループ活動の中で、友達と考えを出し合いながら活動を進める指導が行われている	長	3.9		4	
3	(年少) 先生や友達と一緒に喜んで遊ぶ指導が行われている	少	4.0	3.9	4	3.7
	(年中) 戸外で体を動かして遊ぶ楽しさが感じる指導が行われている	中	3.8		3	
	(年長) 戸外で体を十分に動かして遊ぶ指導が行われている	長	3.8		4	

幼稚園の取り組みに関する質問事項				保護者の評価			園の評価	
4	教員は一人一人の発達を理解し、それにあった対応をしている	少	4.0	3.9	4	4		
		中	3.8		4			
		長	3.9		4			
5	教職員は、保護者の話を丁寧に聞いたり、相談にのったりする等の対応をしている	少	3.9	3.9	4	4		
		中	3.9		4			
		長	3.9		4			
6	保育だよりやクラスだよりを通して今年度の重点目標やそれに関する園児の様子を伝えている	少	4.0	4.0	3	3		
		中	4.0		3			
		長	3.9		3			
7	園の環境（園庭、探索道など）を生かす保育をしている	少	4.0	4.0	3	3.7		
		中	4.0		4			
		長	3.9		4			
						園の評価		
保護者への対応・園での教育について		園全体で子どもたち一人一人の把握に努める		○教員間で子ども理解を深めるようミーティングをする		4		

5. 考察と今後の課題

○自分が好き

「挨拶」について取り上げ、日常生活の中の挨拶が分かり自分から挨拶をしたり、教師や友達だけでなくいろいろな人に挨拶をしたり出来るように、学年に応じた援助を考え取り組みを行った。いろいろな場面での挨拶を教えたり教師が見本となったりするだけでなく、教師から気持ちの良い挨拶をすることを心掛け、挨拶を返したり目線を合わせたりなど一人一人が挨拶をしようとする姿を受け止めた。挨拶をする姿を認められることで自信をもち、進んで挨拶をする姿が多くなった。園内では進んで挨拶が出来るようになってきたが、園外に出た時や来園者には難しい姿がある。また、挨拶が出来るようになり、体を止めて挨拶をすることや顔を見て挨拶をすることなど、相手に気持ちを向けて挨拶をすることを子ども自身が意識できるように指導ができればよかった。

生活カレンダーで挨拶について取り組んだことにより、子どもたちの意識づけのきっかけとなり、進んで挨拶をすることの定着につながった。家庭でも改めて挨拶について見直す機会になったなどの感想がある。家庭との協力だけでなく、家庭での取り組みや思いを知り、連携していく大切さを感じた。ご家庭での負担もあったかと思いますが、子どもの過程での姿をふまえ、園での援助に活かすことができた。ご協力ありがとうございました。保護者からはおおむね肯定的な評価をいただいたが低い評価もあったため、指導をしていることを伝える工夫が必要である。

○友達が好き

「友達との関わり」については、まずは園生活やクラスに慣れることややりたい遊びを見つけ楽しむことを大切にした。年少・年中では、子どもの様子に合わせて、クラスの友達に親しみをもったり一緒に遊ぶ機会を設けたり、イメージや考えを伝えて遊びを進められるように子どもたちの思いを引き出したり、環境を整えたりした。年長では、いろいろなグループ活動の中で、相談することや自分の意見を伝える機会を作った。自分の思いを伝えるだけでは話し合いや活動が進まないこと、友達の思いを知り折り合いをつけることを経験し、友達と協力をして活動をしたり、意見を出し合うことで活動がより楽しくなったりする姿が見られた。保護者からは、おおむね肯定的な評価をいただいた。しかし、保護者にとって分かりにくい項目であると感じる。保護者にクラスだよりやホームページなどでの発信で、園での様子が伝えられるよう努力していきたい。一人一人が思いを出しながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、個々への援助をしていくことが今後の課題である。

○自然が好き

「戸外で遊ぶ」については、各学年で遊具や戸外での遊び、集団遊びなどを設定活動で取り入れ、遊び方を知ることや戸外で遊ぶことの楽しさを感じられるように取り組んできた。年少では、戸外遊びが好きな子どもが多く、設定活動の中で遊び方や決まりを知ることだけでなく、いろいろな遊びが経験できるようにした。年中・年長では、設定活動の中で砂遊びや集団遊びなど、戸外でのいろいろな遊びの楽しさを伝えていった。個人差が大きかったが、戸外で遊ぶことを楽しむ子どもが増え、設定活動で経験したドッジボールや鬼ごっこなどの遊びを自分たちで進めるようになってきた。設定活動では喜んで参加するが、好きな遊びには自分たちのやりたい遊びを楽しむことも多く、設定活動での経験が好きな遊びにつながっていくように援助していくことが課題である。探索道や芝滑りなど園環境をいかした戸外遊びができるよう、各学年の活動で取り入れるだけでなく、園全体で開放する時間を設け、興味をもった子どもが積極的に楽しめるようにしている。保護者からは、環境を生かした遊びや戸外遊びへの期待が大きく、今以上の活用の要望もあり、十分戸外での遊びを楽しめるように取り組み方を考えていくことが課題である。

○幼稚園の取り組みに関することについて

コロナ禍の生活から、以前の生活へと戻りつつあり、行事や触れ合いなど、子どもの生活を豊かにしていくことを進め、保護者の方に園生活の様子を知っていただける機会を増やしていくことができた。また、子どもの園生活での様子を知りたいという保護者の気持ちがとても大きいことがアンケートに現れていた。話をする、保育だよりやクラスだより、ホームページなど園生活を伝える様々な方法があるが、それぞれのツールのよさを生かして、伝える工夫をしていくことが課題である。全職員が意識して、来年度以降さらに努力をしたい。

今年度も保護者のご理解のもと保育を行うことができた。アンケートには多くの温かい言葉と共に厳しいご意見もいただいている。それを教員間で共有し、保護者の方と共に子どもの成長を援助していく保育を行っていきたい。

今年度のアンケートの結果を踏まえ、これからも本園の教育を真摯に進めてまいります。